

100億宣言

株式会社ナベヤ（製造業）



JIG & MECHANICAL PARTS



本巢精密工場

- 本社所在地：岐阜県岐阜市若杉町
- 事業概要：自社ブランドのジグ・取付具および機械要素製品、除振防振製品の製造・販売
- 常時使用する従業員：190名
(2026年4月時点)
- 現在の売上高：36.5億円
(2025年8月期)
- 法人番号：6200001008553
- Web：https://www.nabeeya.co.jp

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
岡本知彦

～16世紀から21世紀へ～ 会社と社員一人ひとりの「持続的成長」による社員の物心両面の豊かさの実現

ナベヤは、西暦1560年の創業以来、5世紀にわたり常に時流に適応し、会社および社員一人ひとりの「持続的成長」を通じて、物心両面の豊かさを実現してまいりました。近年では、素材から設計まで一貫して取り組み、お客様のさらなる繁栄と社会への貢献を目指し、高品位な製品を提供しております。ナベヤは、これまでの歴史と信頼の中で培ってきた技術を活かし、「掴む・支える・おさえる」をコアとする精密機械要素製品、ジグ製品、制振製品を通じて、メーカーの製品性能向上と、ものづくり現場における生産性向上および自動化の実現に貢献してまいります。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

株式会社ナベヤは、「掴む・支える・おさえる」をコアとする精密機械要素・ジグ・制振製品を軸に、2035年に売上高100億円を達成し、その後130億円達成を目指す。本目標は売上拡大のみではなく、付加価値生産性の向上、新製品・新分野への展開、人材育成と物心両面による働きがい向上を実現する「質を伴った成長」を志向する。

課題

①主力製品の市場適合の遅れと新たな分野開拓が進んでいないこと。②多品種変量生産に対する生産管理と設備の自動化・デジタル化が途上であり生産効率を向上させなければならないこと。③新製品開発期間が長く製品の陳代謝が遅れていること。④熟練者依存により属人化が解消されず人材の育成が遅れていること。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

①③成長手段としては、マーケットインとプロダクトアウトのミックスで新製品創出と新分野展開を強化し、半導体・精密分野を中心に性能向上、自動化などで事業領域を拡大する。②④また、多品種変量生産に対応する生産管理システムと、製造現場の作業標準展開で属人化解消と多能工化を図り一人当たりの生産性向上を達成する。①営業面では、WEB/インサイドセールスを武器とし、デジタル活用による営業効率向上と引合い増加を実現する。加えて、海外ニッチ市場への展開を進め、成長余地の大きい分野・地域に経営資源を集中する。(①～④は課題NO.)

実施体制

実施体制は、次期幹部候補の若手を中心とした営業・技術・製造・生産管理部門からの参画による全社部門を連携したプロジェクトチームを編成する。プロジェクトによって成長戦略の具体的なアクションプランの策定と、プロジェクトメンバーを推進役とした組織での実行を進める。アクションプランは、製品、営業、製造、DX、人材、組織、風土のカテゴリーに対して策定する。従来から実施している目標管理制度を絡めてP D C Aを回し、売上100億円を持続的成長への通過点とする。

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

（売上高100億円実現の課題と達成手段）

株式会社ナベヤは、「掴む・支える・おさえる」をコアとする精密機械要素製品・ジグ製品・制振製品を軸に、2035年に売上高105億円達成を目標とする。

単なる売上拡大ではなく、付加価値生産性の向上、新製品・新分野への展開による事業ポートフォリオを工作機械の切削工程中心から測定・検査・組立までの範囲拡大に加えて半導体・食品・医薬などの分野を加える転換を図る。また、人材育成と物心両面の豊かさによる働きがい向上を同時に実現する「企業体質そのものを進化させる成長」を志向する。売上高100億円は規模の目標ではなく、企業体質を進化させた結果として到達する通過点である。

主な課題

課題① 既存事業の主力であるジグ・機械要素は国内市場が成熟してきており、既存品の延長では価格競争に陥りやすい。

課題② 製品品種増と多品種変量生産構造により生産性の低下を人員増で補う成長モデルとなっている。

課題③ プロダクトアウト型の新製品開発により開発期間が長く、市場投入後の立上りが遅い。

課題④ 人材・組織技能の属人化と次世代育成の遅延と不足が持続的成長の制約となっている。

売上高100億円実現に向けた具体的な措置

課題①対応 「掴む・支える・おさえる」を基軸に半導体製造・検査工程や切削工程以外の検査・測定・組立などに向けた製品群へ再構築し、制振・自動化・工程集約領域へ重点展開をする。標準化・モジュール化により収益性を高める。

課題②対応 SCM改革プロジェクトにより受注から出荷までを一気通貫で管理し、標準化・自動化・DXを推進する。生産の工程集約と属人化を解消し一人当たり生産性を向上させる。

課題③対応 マーケットインとのプロダクトアウトのミックスで開発テーマを創出するとともに、コア技術継承を徹底することにより開発期間短縮を図る。製品情報統合システムを構築・活用し企画から量産・市場投入まで垂直立上げを加速する。

課題④対応 負荷変動に対応するために作業標準化と技能マップにより多能工化を推進し、多品種変量生産に対応する。成長実感と評価を連動させ、物心両面による働きがい高める。

